

令和4年度第9回市政懇談会 会議録（要旨）

【日 時】 令和4年8月3日（水） 18時20分 ～ 19時45分
【場 所】 西宇部ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者（5名） 西宇部地区コミュニティ推進協議会会長 : 朝倉 孝吉 西宇部地区母子保健推進員会会長 : 松岡 幸子 西宇部地区子ども委員会会長 : 富賀 万須子 西宇部地区女性の会サン・Sun メイト会長 : 三隅 千賀恵 西宇部地区自治会連合会会長 : 新谷 弘昌 ○総合政策部 ○事務局（広報広聴課、西宇部ふれあいセンター、地域支援員）
【概 要】 1 開会 2 出席者紹介 3 参加者と市長との意見交換 4 閉会
【意見交換・懇談】
○安心安全見守りネットワークについて 【コミュニティ推進協議会会長】 ・平成23年に安心安全見守りネットワークの体制を整備し、多くの方にボランティアで通学路の見守り活動に協力していただいている。 ・活動開始当初、市から526,000円の補助があり、ボランティアに配布するベストや帽子を製作した。現在も同じものを使用しているが、かなり古くなっている。帽子等の「西宇部校区」の表記を「西宇部地区」に変更する必要がある。ボランティアに飲み物を持ち歩くためのドリンクホルダー等も支給したい。 ・経費等の助成について検討していただきたい。 【市長】 ・地域創生事業として、例えば、有償ボランティア制度を創設する等により助成金を申請する方法がある。また、令和4年度からは、コミュニティスクールに対し学校運営協議会助成金（上限5万円）を創設しており、この助成金を活用し、通学路の安全、見守り活動について助成金を申請する方法もある。 ・助成金の活用方法等については、各地区の地域支援員にご相談いただきたい。
○保育士の不足について 【母子保健推進員会会長】 ・宇部市では保育士が不足していると思う。保育士の補助的な業務の手伝いを、研修を

受けた地域のボランティアが担える仕組みがあれば良いと思う。

- ・このボランティアは有償で行うものとし、謝礼については市で負担してほしい。

【市長】

- ・地域の方が保育園に関わることは良いアイデアだと思う。保育園側のニーズについて調査し、総合的に検討していく。
- ・謝礼を市費で出す場合は、公平性の観点から、幼稚園も同様に検討する必要がある。
- ・市としては、保育士確保のため、令和4年2月から保育士の給与を月額9,000円引き上げる補助を開始した。また、保育士養成施設を卒業予定又は保育士試験に合格し、市内の保育園等に常勤保育士として新たに就職する人に、就職支援金を助成する制度がある。
- ・保育士の業務負担軽減を図るためにICT化を進めている。

○学童保育の在り方について

【子ども委員会会長】

- ・学童保育は、以前は地域主体で運営していたが、市社会福祉協議会の運営に変わった。
- ・最近、学童保育の運営について市社協が撤退し、NPO法人や地域の有志団体になってきているようだ。子どもたちが慣れていた指導員が辞めるケースがあるようで、児童の行き場がなくなるのではという不安がある。
- ・市の主導で体制を整えてほしい。

【市長】

- ・現在、市内の学童保育クラブ数は30クラブあり、内訳は、市社協運営が10クラブ、地域団体運営が13クラブ、その他の運営が7クラブである。
- ・市社協から地域団体への運営移行は、令和3年度に恩田地区、令和4年度には岬、常盤の2地区について実施されている。見初、小羽山、新川、厚南の4地区で令和5年度からの移行について協議中である。
- ・市社協は、事業規模を縮小し安定した運営体制への見直しを検討している。
- ・市社協から運営撤退の申し出があった場合、地区内の団体を含め、学童保育の運営を希望する団体を公募し、その団体が安定的かつ適切な運営能力があると確認できた場合には委託先の変更を行う。確認できない場合は、市社協で運営を継続してもらうこととしている。
- ・地域での運営が理想と考えているが、継続性や支援内容の平準性を考え、民間に委託することも検討していく。

○子ども食堂、出産時への支援について

【女性の会サン・Sunメイト会長】

- ・宇部駅前の「おいこら気ママ館」で子ども食堂の手伝いをしている。立ち上げ時は十分な助成があったが、2年目以降は光熱費や保険料程度の助成のみである。もう少し助成を増やしてほしい。

- ・若い母親から、「出産時の費用が 40 万円以上かかるため第 2 子をもうけるか迷っている。出産一時金を 50 万円程度にしてもらいたい」と聞いた。
- ・切迫早産に対する補助を考えてほしい。

【市長】

- ・子ども食堂の運営補助に関しては、県が支援体制を整えている。山口県子ども食堂・子どもの居場所ネットワークに登録することで、助成金や食品等の支援が受けられるのでご検討していただきたい。
- ・県内の市町では、周南市に助成制度がある。今後、本市においてもニーズを調査し、支援制度の構築について検討していく。
- ・本市での出産育児一時金の総額は、産科医療補償制度の掛金と合わせて 42 万円である。国においても、出産育児一時金の支給額について議論されているので、国の動向を注視する。
- ・切迫早産に対する補助について、今後検討していく。

○自治会組織の活性化について

【自治会連合会会長】

- ・現在、任期の短い自治会長が増え、腰を据えた組織づくりが難しくなっている。各自治会の問題だと思うが、市として考えている対策などが何かあれば教えていただきたい。

【市長】

- ・地域活動の担い手不足の問題については、さまざまな場でお聞きしている。
- ・市では、担い手不足の解消に向け、「地域活動の日」の構築・実施を考えており、商工会議所と協議を進めている。
- ・「地域活動の日」は、市内企業のノー残業デーを「地域活動の日」と同じ日に設定してもらい、その日は地域活動に参加していただくよう働きかける。地域に関わるきっかけにしたいと考えている。
- ・企業については、本社がある地区の地域活動に、会社単位で協力してもらおうのもよいのではと思っている。

○休日夜間診療所の業務について

【母子保健推進員会会長】

- ・休日夜間診療所の業務内容について精査する必要があると思う。診療時間は 23 時までだが、22 時以降の利用状況を鑑みると必要ではないと感じる。
- ・従事する医師等の負担を考慮すると、見直した方がよいと思う。

【市長】

- ・現在、休日夜間診療所のあり方について、医師会と協議をしている。
- ・休日夜間診療所の運営は従事する医療関係者の負担となっているが、山口大学医学部

の小児科の負担を減らすことにつながっている。

- ・医療関係者の負担を減らす方法の一つとして、救急車を呼ぶ必要があるかを相談するための救急医療電話相談「#7119」の普及を図りたいと考えている。

○二葉保育園裏の道路工事について

【女性の会サン・Sun メイト会長】

- ・二葉保育園裏の道路の工事が終わっているようだが、いつから通行できるようになるか。

【市長】

- ・後日、所管課である道路整備課から連絡をさせる。